



篠 浩司

ひとり親家庭への支援について

問 ①母子・父子自立支援員の専門性の向上の取り組み、また関係機関との連携について。②就労における自立支援策の取り組みの状況について。③学習支援の取り組みの現状と課題について。④ひとり親家庭についての実態調査の内容、時期の検討状況は。

答 ①研修参加。切れ目ない支援のため関係機関と連携を進めている②28年度は高等職業訓練促進給付金制度の利用者全員が仕事についている③19世帯24名の子供に実施。親が子供に割ける時間の少なさが課題④簡潔かつ現状把握できるものを検討。8月実施を予定。

児童福祉施設について

問 ①保育園施設整備状況について、今後計画の前倒しを含めて再検討されるのか、さらには保育需要の市域差についてどのように考えるか。②待機児の多くなった学童クラブも待機児対策推進本部で議論することはできないか。

答 ①待機児対策推進本部において、保育需要割合の妥当性等を検討・検証し、人口動向、保育需要数を適切に推計し、計画の前倒しを含めて施設整備計画の見直しを図る。保育需要の地域差について詳細データの分析が済んでいないため不明。②検討していく。

市内環境美化について

問 ①ガムスポット除去の課題と今後の予定。②禁止されている電柱やカーブミラー等公共物への屋外広告に対する市の対応は。③市民として協力できることは。④今後違反広告物に対する市がすべき対応と課題は。

答 ①きれいな状態の維持が課題。狛江駅だけでなく和泉多摩川駅周辺も作業を行う。②都市建設部職員がその都度撤去。③委任されていない市民は撤去できないため市への連絡により撤去が可能となる。④他部職員の撤去の検討。市への通報による撤去の周知。



三角 武久

世田谷通りの安全対策について

問 一の橋交差点の信号機が赤になっても、新色のままとなり、その後赤信号となる。死亡事故が発生し、一の橋交差点歩行者用信号機が「青になっても安心して渡ることができない状況。高齢者や子供たちの安全確保は万全とは言えない状況である。狛江市は死亡事故再発防止、市民の安心安全にどのように取り組むのか。

答 本年2月にオープンしたニトリの出店に際して事業者が主体となり交通量調査並びに将来予測などを行い、その資料に基づく協議の結果、警視庁において当該信号機を含めた周辺信号機の点灯時間の調整、周辺交差点の右折レーンの滞留長の調整を行ってきたところである。様々な角度から検討した結果が現在の交通状況となっているものと理解しているが、再度所轄である調布警察署に相談するとともに交通マナーの向上に努めていく。

感動共有・おもてなしの心でお迎えについて

問 ①市民の様々なニーズに応えるため、言い方を変えれば納税者の満足度を満たすため、どのように窓口サービスの向上を進めていくのか。②点字ブロック等の配置など誰もが利用しやすく、立ち寄ることができる環境を着実に整え、今後は、触知案内板の設置を強く要望するとともに、市民に親しまれ立ち寄ることができる市庁舎づくりをどのように展開していく考えであるのか所見を。

答 ①市民や職員の負担軽減、より親しみやすい対応や丁寧な説明に努めるなど、様々な観点から継続した取り組みが重要、これに確実に対応し、信頼される窓口サービスにつなげる。②トイレ洋式化やベビーカー、誰でもトイレへのオストメイト対応設備やおむつ替えシート設置。現在、誘導ブロックで総合案内まで誘導しており、触知案内板の設置は、現状の対応で状況を見つつ、研究課題としたい。



田中 智子

空き家の活用で多世代が交流できる場の確保を、狛江市の空き家対策について

問 ①狛江市の空き家対策の現在までの検討状況。②「空き家等対策条例」と「対策計画」の策定予定。③空き家等の有効活用について課題は。④相談窓口や専門家の紹介、マッチングが必要、考えは。⑤空き家の活用で子供や親、多世代が交流できる場の検討を。

答 ①状況の把握、条例について意見交換等を行ってきた②平成29年度中の策定予定③建物の老朽化や耐震性、相談体制、情報提供、税金の減免等④検討している⑤活用可能な事業等とのマッチングに向けた施策等を検討。

まちづくりの課題について

問 ①中和泉四丁目の旧四小前商店街の所は幅員が狭い割には交通量もあり危険。何らかの改善をしてほしいが②西河原公園の滑り台のコンクリートが剥がれ危険。またトイレも暗く汚い、改修を③和泉多摩川児童遊園にトイレ設置を④一定規模の公園にトイレ。

答 ①スピード抑制を促す路面標示、車両通行部分にドット線の設置等検討②保守点検の結果を鑑み、必要に応じて改善している。トイレ改修にあわせLED灯に更新している③トイレ設置には維持管理等の課題がある④市内公共施設等を活用いただくことも有用。

市民センターの増改築について

問 ①調査委託報告書は提出されたのか。②速やかに公開すべき。③内容は。④市民センターを考える市民の会の皆さんと協定を結び、協働して進めてきた事業。結果の説明を。⑤今後の対応は。⑥情報を公開し、納得できる方法とすべき。考えを伺う。

答 ①5月31日に提出された②検査終了次第、準備する③提案をもとに5つの増改築案と各案の特徴を整理④6月中旬に情報交換を行う予定⑤議会報告後、広く市民へ周知し、アンケートを実施する⑥お互い協力していく。



鈴木 えつお

国民健康保険の都道府県化にあたり、税負担の軽減へ国や都に財政支援を求めるべき

問 来年度から国保の運営主体が都道府県に移行する。①国は各市の一般会計からの法定外繰入金解消を掲げているが、仮に狛江市の繰入金をゼロとした場合、国保税の値上げは幾らになるのか。②国保加入者の53%が所得100万円以下の低所得であり、この間、加入者の所得は減少しているのに国保税は大幅に値上げされている。国保税の軽減のため、国や都に財政支援を求めるべき。

答 ①国等から財政支援の拡充が予定されており、平成30年度以降はまだわからないが、平成28年度においては法定外繰入金金が5億8047万2000円、被保険者を当初賦課時の2万217人とすると一人当たり2万8712円になる。②今後の状況等も踏まえ、市長会等で十分な議論を行いながら、どのような対応をとっていくか考えていきたい。

障がい者のグループホームや就労支援施設増設のため、市の独自補助制度の拡充を

問 市民から障がい者のグループホームや就労支援施設増設の要望を受けた。市の調査でも「一番の心配は親亡き後のことです」との声が出され、就労支援施設も定員を超えて利用されている。調布市では、市の独自補助でこうした施設の開設を支援している。狛江市でも独自補助を充実してほしいがどうか。

答 地域生活拠点となる施設については「ほかほか広場」で考えている。制度の充実については研究しているが、具体的には考えていない。

他に、震災時井戸水提供の家制度の充実について質問。



岡村 しん

岩戸地域の開発計画、道路地区計画、公園について

問 ①3・4・16号線のメリットとデメリットは。②岩戸北区分と南区分の予算は。③補償について、耐震化工事費用は上乗せされるか。④道路用地以外の不整形地は買収しないのか。⑤水道道路は岩戸北区分と同じ2021年頃に事業スタートか。⑥岩戸北二丁目周辺地区計画で決まる用途地域境の部分のルールを市内全域に広げられないか。⑦要望してきた電研敷地内へ公園設置の交渉状況は。

答 ①メリットは広域交通ネットワークの形成、広域避難路の形成、避難路の確保、緊急車両のアクセス性の向上、木造密集状況の一部解消、市域南部のまちづくりへの展開等、デメリットは整備コストが大きい、工期が長い等②市負担は岩戸北区分で約11億円、岩戸南区分で約16億円を想定③耐震化分を評価し補償費を算定④買収しない⑤同時期と認識⑥ルールがあった方が望ましい場所もある。必要性を啓発する⑦協議している。

子育て環境の充実、待機児、おむつがえスペースについて

問 ①待機児が98名。認可保育所設置の前倒しを②公立保育園への運営費の補助を都や国に要望すべき③仮称喜多見計画で保育所設置の交渉状況は④学童の待機児が83名。増設が必要。前の計画どおり780名の整備を⑤公民館で男性が子供のおむつをかえる場所がない。現状は⑥おむつがえスペースを中央公民館は増改築時に設置すべき。西河原公民館は改修時に設置できないか。

答 ①待機児対策推進本部において、計画の前倒しを含めて施設整備計画の見直しを図る②地方交付税に参入されているため要望は検討③事業者の回答待ち④こまえ子育て応援プランにおいて量の見込みと確保策を毎年検討している⑤両公民館とも1階女性トイレにおむつ交換台を設置。男性が交換する場合は別室を用意⑥施設改修の課題のうちのひとつと認識。

